

はじめに



昨年発生した東日本大震災は、自然の猛威を改めて実感させ、自然界の中に生きる人間の存在を強く認識させるきっかけとなりました。本県も多大な被害を受け、原子力発電所事故による放射性物質による汚染の影響は、今なお続いており、環境政策にも大きな変化をもたらしました。

震災被害により大量に発生した災害廃棄物や放射性物質により汚染された廃棄物等の処理、再生可能エネルギーの導入促進等の新たな課題に対し、県では、庁内横断的な取組を進めているところです。

また、本県では、依然として、光化学オキシダント、手賀沼・印旛沼・東京湾の水質汚濁、里山等の身近な自然環境の荒廃、廃棄物の不法投棄など、多くの環境問題を抱えています。さらに、大量生産・大量消費型の社会から、「循環型社会」への転換も喫緊の課題となっており、地球規模の気候変動への対応も課題として残されています。

これらの課題を解決し、本県の豊かな環境を次の世代に引き継いでいくため、県では、平成20年3月に環境政策のマスタープランである「千葉県環境基本計画」を策定し、さらに、平成22年3月に策定した千葉県総合計画「輝け！ちば元気プラン」では、重点施策の一つとして、「みんなで守り育てる環境づくり」を掲げ、身近な地域から地球規模に至るまで様々な環境問題に対する施策を積極的に展開しています。

平成24年版環境白書では、こうした状況を踏まえ、第1部で、東日本大震災を契機とした環境分野での取組を取り上げ、第2部では、本県の環境の現状や環境保全に関する施策の実施状況を取りまとめました。

このような広範な環境問題へ対処していくためには、行政のみならず、何よりも県民の皆様とともにチームスピリットの精神を発揮して行動していくことが大切です。

本書を通じて県民の皆様が環境問題への理解や関心を深め、環境保全の取組を進める上での一助としていただければ幸いです。

平成24年12月

千葉県知事 森田健作